

IoT時代のワンポイント講座 地図・地球データ

第7回

位置指定の新コンセプト…

座標に日本語名を割り当てる

ご購入はこちら

平野 匡伸

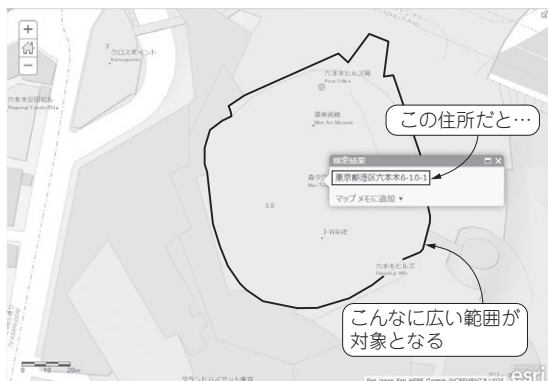


図1 住所を入力しても特定の位置を指し示せない

住所だけでは場所の特定が難しい場合に威力を発揮するサービス what3words について紹介します。これは3つの単語から位置を特定するもので、この技術を使えば、大きい建物の玄関や裏口など、住所だけでは指し示せない位置情報を得ることができます。

新コンセプト…3つの単語でピンポイントな位置を特定する

● 住所だけでは場所を特定できない場合もある

例えば六本木ヒルズの住所は、東京都港区六本木6-10-1です。地図サービスで検索すれば、少なくとも六本木ヒルズがどこにあるかは判明します(図1)。ここで、六本木ヒルズで待ち合わせの約束をしたとします。このとき、住所情報だけで待ち合わせ場所に無事たどり着けるでしょうか。難しそうですね。住所情報以外で足りないもの、それは六本木ヒルズの「どこで」という情報です。

● 3m四方のエリアを3つの単語で表す

what3words (<http://what3words.com>) というサービスがあります。これは、英国のスタートアップ企業が開発しました。全世界を3m×3mのグリッドに区切り、1つ1つのグリッドに3つの単語を割り当てます。その単語の組み合わせによるキーワードで

位置を表します。what3wordsのウェブ・サイトでは地図を使ってキーワードを検索できます。

● 手順

▶ステップ1

<http://what3words.com>のトップ・ページ右上の「Explore Map」をクリックします。

▶ステップ2

地図画面が表示されますので、ここで特定の位置のキーワードを取得したり、逆にキーワードを入力したりして場所を検索できます。

3m×3mというグリッドは細かいので、建物の入り口まで特定できます。例えば、CQ出版社の正面玄関は、「くつつく・うわぎ・げいにん」です。また、 세미나・ルームへの入り口は「おたがい・ちょこ・いろいろ」です(図2)。

● 多言語対応でスマホ・アプリもある

このサービスは多言語に対応しているので、日本語以外の単語も使用できます。3単語のキーワードを連絡されたら、ウェブ・ブラウザで、<http://w3w.co/>の後に単語を入れれば、すぐに地図が出てきます。例えばCQ出版社の正面玄関なら下記です。

<http://w3w.co/くつつく・うわぎ・げいにん>

iOSやAndroid用のアプリもありますので、スマホの現在位置から単語を検索するような使い方も可能です。なお、このwhat3wordsは、メルセデス・ベンツのナビゲーション・システムの2018年型モデルから正式採用が発表されたことでも注目されています(5)。

ちなみに…実は米軍やNATOでは以前からアイデアはあった

このような試みは以前から行われており、例えば米軍により開発され、NATOの各国に標準的な地理識別子として使われている、MGRS (Military Grid Reference System) (6) というものがあります。これは、UTM (ユニバーサル横メルカトル図法) やUPS (ユニバーサル極心平射図法) といった座標系上にグリッドを設定し、そのグリッド番号で位置を指定します。

第1回 IoTデータと地図を組み合わせる現実的な方法「住所」(2018年3月号)

第2回 地図上のデータ値の可視化 (2018年4月号)

第3回 GPS移動ルートを地図上に描く (2018年5月号)